



この歌のように、昔はホタルが、身近な存在だったのでしょうか。現代の暮らしのなかでは、どうなのでしょう？

ほたる、い
ほたる、い
あつちのみずは
にがいで
こちのみずは
あまいぞ
ほたる
ほたる
ほたる、い

【写真提供】藤城康男さん(上)山田照夫さん(左上)...清谷川

清流のシンボル ホタルがつなぐもの

河川浄化へのあゆみ.....

ゲンジボタルは、きれいな水にしかすむことができません。市内には、ホタルが舞う川がいくつか残されています。なかでも、地域の皆さんの手によって守られてきた清流、清谷川(藤七原)、庄司川(鎌田)、免々田川(山田)。ホタルの舞う清らかな流れは、時代を越えて受け継がれてきました。

清谷川では、平成元年から河川浄化PR活動の一環として、ゲンジボタルの幼虫の放流を行ってきました。平成6年には、上流の藤七原地区に汚水処理場が造られ、生活排水が浄化されるようになり、地域の皆さんの河川浄化の取り組みのおかげで、水質が向上してきました。今では乱舞が見られるようになり、ホタルの名所となっています。また免々田川でも、環境保全活動が地域ぐるみで行われています。

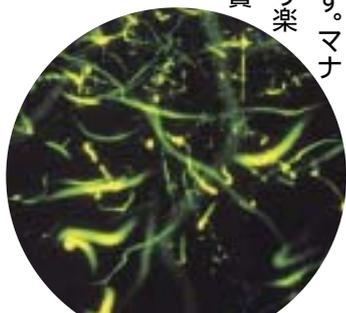
ホタルの光が、私たちの心を引きつけ、川や環境を大切にすることを呼び覚ましてくれたのかもしれない。

ホタルについて.....

ホタルは成虫になってすぐに光るのではありません。最初は草にぶら下がり、夜露を飲むだけで静かに過ごします。そして寿命が尽きる前の最後の2日間に、必死に大空を舞って光るのです。

空を舞っているホタルのほとんどはオスです。メスは下の草影でオスからのアピールを眺めています。メスがオスを選び合図をすると、オスは下にいるメスのところへ、光りながらストーンと落ちていきます。その様子はまるで「火が垂れるよう」ということで、これが語源となり昔の人はホタルのことを「火垂る」と書いていたそうです。

ホタルは6月初旬ころまでが見ることがあります。マナーを守り楽しく観賞しましょう。



乱舞するホタルの幻想的な光
【写真提供】藤城邦喬さん...清谷川